

## 目次

問題文解説と読み取り .....	2
I. 設計条件 .....	2
1. 敷地及び周辺条件 .....	2
敷地図について .....	2
2. 建築物 .....	3
(1)構造、階数等 .....	3
(2)床面積の合計 .....	3
(3)要求室 .....	3
視聴覚小ホール .....	4
その他の諸室 .....	5
3. その他の施設等 .....	5
4. 計画に当たっての留意事項 .....	6
II. 要求図書 .....	6
1. 要求図書 .....	6
2. 3. 面積表等と計画の要点等 .....	7
エスキス .....	7
1. ゾーニングイメージ .....	7
ゾーニングイメージA .....	7
ゾーニングイメージB .....	8
2. 定数による各階面積予想 .....	8
3. 建築可能範囲 .....	9
4. 柱割検討 .....	10
柱割A案 .....	10
柱割B案 .....	10
5. 室構成検証 .....	11
6. 1階プランニング .....	12
7. 2階プランニング .....	13
8. 作図過程での変更事項 .....	14
問題と解答例の作成にあたって .....	14

---

## 問題文解説と読み取り

---

### I. 設計条件

「・・・地方都市の住宅地に・・・」

住宅地に計画する場合、敷地図にある住宅要素に対し配慮するとともに、道路斜線勾配が1：1.25となることに注意を要する。

「・・・近隣にゆかりのある既存樹を保存する計画とする。」

この場合、建物がある程度の余裕を持って既存樹を避ける必要があり、建物が凹型や中庭形式でこれにかわす時には、樹木の根に配慮し耐圧盤が直下にあってはならない。

#### 1. 敷地及び周辺条件

(1)～(6)の条件の内、今回特に注意すべき点をあげると

○(2)の歩道の切り開きについては、一般的に接する1道路に付き、2箇所までとされている。

○(3)の**準住居地域**については、道路斜線について勾配が1:1.25であるが、接する2道路は西側が幅員15m、東側が8mであるため、東側道路中央から10mの範囲は8mをもとにした斜線チェックが必要となる。今年の場合、開架閲覧室の階は約4.5m、小ホールのある階は6～6.5m、パラペットを含み高さ11～12mと考えられるので、柱型と後退緩和を考慮し、芯で2m\*の後退を目安とすれば問題ない。

\*小ホールが2階の場合は、それ以外を一般階高とし、ホールを西寄りとするれば1mでも可となる。

○(3)の**準防火地域**であるため、**準耐火建築物以上**としなければならない。

○(3)の建ぺい率の限度80%については、その他の施設で、今回中庭を指示されており、これを除外できることを忘れていないと、厳しい計画を余儀なくされる。

#### 敷地図について

平行2道路の接続であるが、東側道路は「歩行者及び自転車専用道」とある。この場合、幅員が広く車道のある西側道路を主道路と見なすのが通常的判断で、主アプローチ、当然車いす使用者用、サービス車双方ともこちらからの出入となる。その際、敷地内での利用者とサービスの動線が交錯しないよう注意を要する。

歩行者と自転車のアプローチについては、今回の東側道路の特殊性と2道路の有効な利用に配慮して、開館時間内は双方からアプローチできるのが望ましい。

南側集合住宅は、北向き居室の開口がある可能性が高く、面する南壁面は開口を抑制する。主な開口は東西面となるが、西側南寄りには道路を挟んで集合住宅があるため、閲覧室西側は1階であればピロティを介して後退、2階は開口の必要のない小ホールまたは閉架書庫。閲覧室が2階であれば、視線が合わないよう、ルーバー等の設置（本にとって西日は好ましくない。）をすればよいだろう。

西側北寄りには道路を挟んで一戸建て住宅地がある。これに面する建物北西側は管理ゾーンが来る可能性が高く、窓については型ガラスとする等の措置でよいが、開口がないからといって階高の高い小ホールを配置するのは朝日を遮ることから避けたほうがよいだろう。

既存樹は敷地中央やや南に位置している。これを含んで中庭の指示があり、開架閲覧室の中央となることが予想される。分断される空間において、いかに支障なく、その有効性を発揮したプランニングとすることができるかが問われている。

## 2. 建築物

### (1)構造、階数等

構造指定については自由となっているので、主体はRCとしつつ、小ホールの設置階により対応が異なる。

- 2階設置の場合であれば、小屋梁の長スパンはRC（12mまで）、S、PC、小ホールを囲む部分と下部をSRCの併用とする可能性がある。
- 1階設置の場合で、上部が2階屋上と揃える場合は同上となる。
- 1階設置で屋根が2FLとRFLの間にある場合はRC、S、SRC併用の可能性がある。

注：柱中間位置でのPCケーブル引張はできない。

- 1階設置で上部に2階が載る場合、2階床長スパン梁はRC（制約はあるが、10m程度まで可能。）、PC、SRC（ホールとその上階部分を囲む柱・梁）の併用、全体がSRC造の構造種別が候補として上がり、建築コストもこの順で高くなる。計画に当たっての留意事項(2)の①には「経済性にも配慮する。」とあることから、前者3種を候補としつつ、長スパンの長さを考慮しながら最終決定を行う。

「地上2階建て・・・」とある。地下がない場合、給水ポンプ室（受水槽方式の場合は受水槽室）、屋内消火栓ポンプ室、空調機械室などを1・2階に適宜配置する必要がある。

### (2)床面積の合計

合計面積の範囲は1900～2300㎡となっているので、中間値の2100㎡をやや上回る規模2150㎡程度を目標として計画するとプランニングが容易となる。

### (3)要求室

気付いた点、注意を要する点について指摘しておく。

- 開架閲覧室のコントロールカウンターは「総合案内、及び児童開架閲覧、レファレンスの両コーナーの対応を兼ね、中庭に隣接させる。」とある。総合案内とはエントランスホールに面することを意味し、他の3方に面するとすれば、コントロールカウンターは1階の中央配置となり、管理ゾーンとの接続は困難となる。その際、気をつけなければいけない点として、2階配置となるであろう閉架書庫、または図書作業室から小荷物専用昇降機により書籍動線を確認することが重要となる。
- 各室には階指定がなく、地上1・2階に適宜計画とあるが、特記事項により1階に設置する室はある程度類推でき、前項により開架閲覧室が1階となる。従って規模の大きい視聴覚小ホール、大

会議室、ホワイエ、閉架書庫は2階の可能性が高くなる。その他の施設等の屋上庭園は大会議室と直接行き来できるとあるので、ここで2階確定となる。また、大会議室、視聴覚小ホールと共用するホワイエも2階となる。その他、守衛室と荷解き室は1階確定としてよいだろう。

○残る図書作業室、事務室、職員会議室、喫茶コーナー、ボランティア室、館長・応接室、職員休憩室、職員更衣室が1階または2階に設置することとなり、各階の面積構成予想により適宜設置階を決定する。

○要求室の床面積指示は「約〇〇㎡」の表現が開架閲覧室をはじめ4室で、ここ2・3年の本試験に比べ少なめである。「約△△人が利用する。」に類する指示は開架閲覧室内のコーナーを除けば、視聴覚小ホール、事務室、守衛室、職員会議室、喫茶コーナーの5室、その他の室は面積適宜となり、自由度は高いものの難易度も高い。

○最下段に延長使用される室として。視聴覚小ホール、喫茶コーナー、大会議室が記入されている。これらの利用者の帰途経路となるエントランスホール内はコントロールカウンター等が開放の状態面でしているため、管理シャッターなどの措置が必要となる。

### 視聴覚小ホール

これは当然無柱空間とする必要がある。

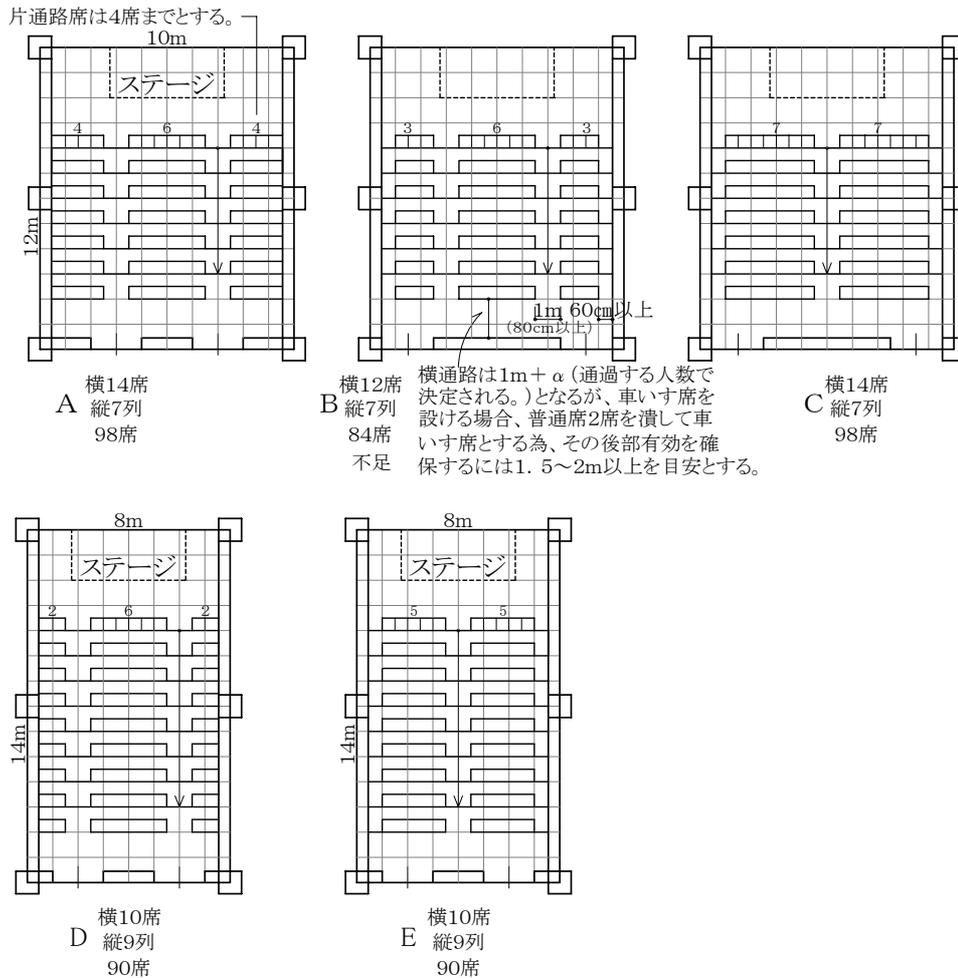
今回、視聴覚小ホールは面積指定がなく、手がかりは「90席以上」のみとなっている。この場合、適正な規模（受験生の多くは単位グリッド4コマにこだわり、無意味な空白が発生しやすい。）としないと、他室のプランニングが苦しくなる。

客席数から客席想定面積を算定する場合は、これに客席密度（ $0.9\sim 1.2\text{m}^2/\text{人}$ ）をかけるが、練習課題1～3の解説に書いたように、1.1としておけば通路計画に困ることはない。従って $90\times 1.1=100\text{m}^2$ 、好ましいプロポーションは幅：奥行 $=1:1\sim 1.5$ （中が奥行を上回ると、前列両端の席からスクリーンが見えにくくなる。）を目安とする。この場合、幅×奥行は $10\text{m}\times 10\text{m}$ 、 $9\text{m}\times 11\text{m}$ 、 $8\text{m}\times 12\text{m}$ などの可能性がある。これに組み立て式ステージ（奥行 $2\text{m}$ ）が加わり、客席＋ステージの規模は $10\text{m}\times 12\text{m}$ 、 $9\text{m}\times 13\text{m}$ 、 $8\text{m}\times 14\text{m}$ となる。グリッドに載り、スパン構成のイメージしやすい候補としては $10\text{m}\times 12\text{m}$ 、または $8\text{m}\times 14\text{m}$ が有力となる。

試験における客席前後のピッチはグリッドを意識して $1\text{m}$ とし、段の蹴上げは $8\text{cm}\sim 12\text{cm}$ 程度とする。8cmであれば縦通路は $1/12$ 以下のスロープとすることができ、10cmとすれば断面計画が容易である。

座席は $50\text{cm}\times 50\text{cm}$ とする。横列の座席数と縦・横通路の数、通路幅等は正確には「劇場等に関する技術基準」によるが、内容が複雑であるためホールの規模によりいくつかの対応を覚えた方が試験対策上有利である。

芯幅 $10\text{m}$ と $8\text{m}$ のホールの場合、客席通路配置としては以下のパターンが考えられる。



上記のようにBを除き90席以上を満たすことはできるが、車いす席1席を配置すると、普通席2席が減少するため、DとEについてはもう1列増やす必要が生じる。従って、AとCが有力。面積想定としては120㎡に、付設の調整室を約10㎡加え130㎡で考えればよいだろう。

ホワイエに面積指定は無いが、客席の1/2程度とするのが一般的である。ただし、今回は視聴覚小ホールよりも大きい大会議室がこれを共用することから、これの約1/2程度とすればよい。

### その他の諸室

その他諸室における面積想定の目安としては、一般閲覧コーナー1.5~2㎡/人、ブラウジングコーナー1.5~2㎡/人、職員会議室2~3㎡/人、喫茶室約2㎡×人数+客席の1/3程度の厨房、事務室約5㎡/人、守衛室(1人)5~10㎡、館長・応接室20~30㎡、職員更衣室男女各6~10㎡程度を参考とする。

### 3. その他の施設等

(1) 「・・・既存樹を含み、まとまったスペースで約100㎡・・・」とある。「約」の指定であるから90~110㎡とすればよく、既存樹の枝先は1m程度の余裕は欲しいところである。

(2) 「屋上庭園は・・・80㎡以上・・・大会議室と直接行き来できる。」となっている。これは6m×7mグリッド2コマ以上の屋上庭園が大会議室に面し、2室分割をしてもそれぞれの室から行き来できる必要がある。ホワイエとの関係も同様であり、この3空間は直列に続くものと理解できる。

(3) 駐車場は車いす使用者用が2台、サービス用が1台となっており、主アプローチ、自転車アプローチ、通用口等を全て西側道路からとする事情から、1箇所にまとめることはできず、車いす使用者用が対面で出入口1つ、サービス車は別途、主アプローチを挟んで出入口を設ける必要がある。西側建物後退は車いす使用者用で決まり、駐車スペースと車いす通路を含め露天とする場合6m、スペースのみ露天、通路をピロティとする場合4m、双方ともピロティとすれば1mで可となる。

(4) 自転車置場は60台分となっている。スペースとしては片通路型で4m×30m、中通路型で6m×15mとなる。

(5)については省略

なお、ごみ置場について指示が無いが、指示が無くても必要なものと考え、4～6㎡程度を通用口付近に配置する。

#### 4. 計画に当たっての留意事項

特筆すべき点について触れておく。

(1)②「利用者ゾーンと管理ゾーンの異なる機能を適切にゾーニングするとともに、書籍の円滑な移動動線に配慮した計画とする。」とあり、前段は従来通り管理ゾーンをまとめて配置することが要求されるが、要求室欄の考察に書いたように、1階の中央配置となるコントロールカウンターは管理ゾーンから孤立する結果となるので、書籍の移動動線（特に迅速性が要求されるレファレンスで検索した書籍の閉架書庫からの移動）確保のため小荷物専用昇降機の設置が必要とされる。

(1)③「・・・読書空間が落ち着いた雰囲気的环境になるよう配慮する。」とある。文章の意味は明確であるが、プランニングにおいてどう対応するべきかは色々なパターンがあるであろう。一つ言えることとして、一般閲覧コーナーは児童開架閲覧をはじめ、エントランスや他のコーナーとは距離を保ち、静けさが担保された位置であることが必要と考えられる。

(2)今回は耐力壁等を配置する指示はない。2階建ての低層建築物であるため、純ラーメンでもよいこととなる。

(3)②の設備項目にも「環境負荷低減に配慮する。」とある。空間構成から単一ダクト方式の併用はまぬがれない所であるため、熱源機のチラー使用（化石燃料の不使用）、換気設備は全熱交換器の採用などが必要となる。

## II. 要求図書

### 1. 要求図書

注意すべき点について触れておく。

(1)(2)①ト。「開架閲覧室の新聞・雑誌、レファレンスを除く各コーナーの書架、ソファ、いす及びテーブル等のレイアウト、各コーナーの範囲」とある。要求図書でのレイアウト指示がある場合の欠落は、減点が大きいのので注意を要する。また、コーナーの範囲を明示する意味は、ホに「各要求室、各コーナーの床面積」とあることに起因している。

(1)(2)①リ。「・・・設備スペース・・・その機能がわかる室名表記（例：○○機械室）とする。」とある。受水槽とポンプがあれば「受水槽ポンプ室」、単一ダクトの送風機があれば「空調機

室」などの表現となろう。過去と異なる表現があった際にはマーカー記入を行い、見逃すことのないよう、注意を要する。

(3)③には「**基礎**については図示しなくてよい。」とある。基礎の文字があるだけで自動的に記入する人も多いが、描いてあっても減点はないが、試験時間のロスとなるので注意を要する。

### 2.3. 面積表等と計画の要点等

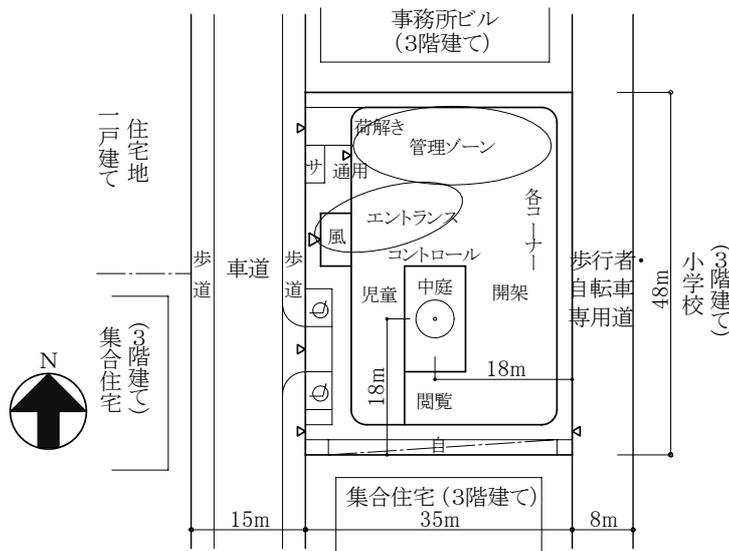
面積表については省略。計画の要点等については解答例を参照のこと。

## エスキス

### 1. ゾーニングイメージ

問題文に一通り目を通した段階で、通常は記憶の新しい内に、問題文中の敷地図を利用し、ゾーニングイメージをフリーハンドで描き込むようにします。ただし、今回は敷地図が1/1200であるため、対案を含め1/1000としてエスキス用紙に記入し、長所短所を比較しながら1/400のプランニングに進むと良いでしょう。

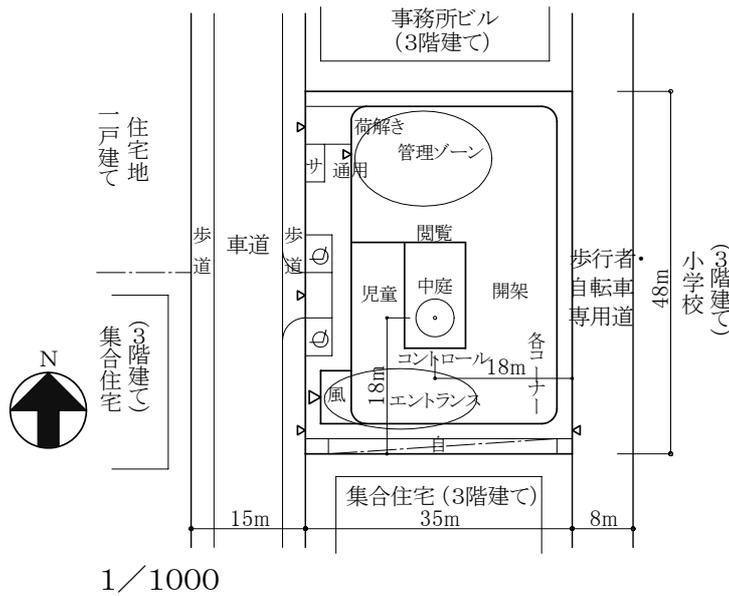
#### ゾーニングイメージA



1/1000に描きなおしたもの

主アプローチと2種の車出入口、および通用口を西側主道路に向け、自転車置場への出入口を東西に配置し、内部においては北側に管理ゾーン、エンタランスホールを挟んで中庭を内包した開架閲覧室をイメージした人が多かったと思われる。これをイメージAとする。

ゾーニングイメージB



人によってはコントロールカウンターがいずれ管理ゾーンから孤立するならばと、エントランスホールを南西寄りに配置した案もあるだろう。これをイメージBとする。

B案は階段配置（2階の2方向避難の観点）としてはよいが、南側隣地の集合住宅に配慮するとエントランスホールに十分な開口を設置しにくい点、一般閲覧コーナーは、児童開架閲覧コーナーと十分な道のりを確保し、中庭に面するよう配置すると、南採光となり太陽グレアの問題があるなどの点から、以下はA案をもとに進めることとする。

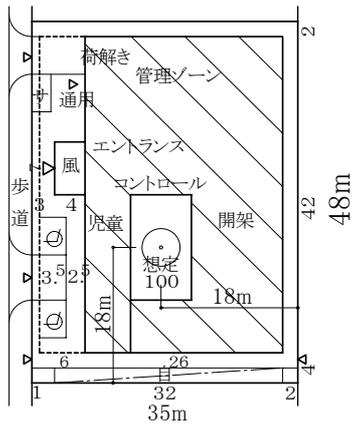
受験生によく見られる例として、一つのイメージのみを基にプランニングへ進むと、行き詰った際、再びイメージから初めなくてはならず、その時点では問題文を読んだ直後のイメージそのものが薄れているため、よい案が思い浮かばない。従って、複数のイメージをこの段階で用意しておくことが重要である。

2. 定数による各階面積予想

この課題では、要求室欄において「約〇〇㎡」の面積指示がやや少ないため、定数利用による各階の規模、室構成予想においてその分労力を要するが、「約△△人が利用する。」に類する指示のある室と、「適宜」とある室に想定面積を代入した上、定数（＝上記の対象室面積合計に対する合計床面積目標値の割合）を求めてみよう。

- 1) 指定面積範囲は1900～2300㎡、目標値は先の考察で述べた中間値+50㎡の**2150㎡**である。
- 2) 要求室欄で面積指定のあるものは、開架閲覧室：600、大会議室：150、図書作業室：30、閉架書庫：250となっており、小計は**1030㎡**
- 3) 「約△△人が利用する。」に類する指示のある室の面積想定は、視聴覚小ホール：130、喫茶コーナー30（10人×2人+厨房10）、事務室：40（8人×5㎡）、守衛室：10（1人の場合）、職員会議室40（20人×2㎡）、これら想定面積小計は**250㎡**
- 4) 「適宜」に類する要求室の面積想定は、小ホール倉庫：10、ホワイエ：75（大会議室の半分が同時利用すると仮定し、150×1/2）、エントランスホール：100（単位グリッド2コマ相当）、ボランティア室：20（人数不明であるが、10人程度を想定し、×2㎡）、館長・応接室：20

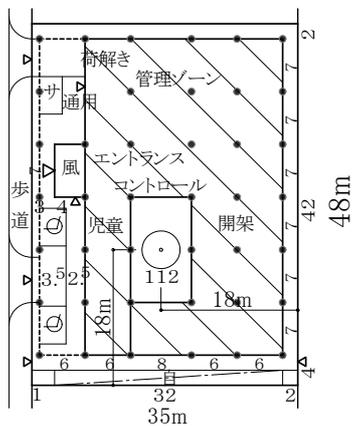




この場合の1階面積は1020㎡（26×42+風除4×7-中庭100）であるが、2階は1124㎡（32×42-中庭100-屋上庭園80-内部吹抜40）となり、合計2144㎡と目標値に近くすることが可能となる。

#### 4. 柱割検討

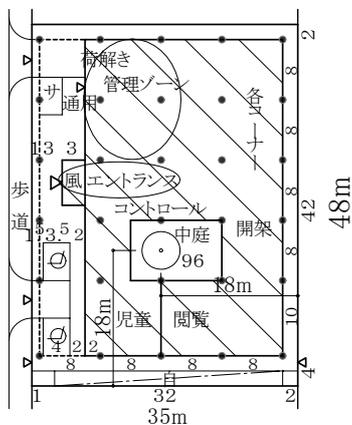
この建築可能範囲の中で柱割を検討すると以下ようになる。



##### 柱割A案

まず考えつく案として、南北方向は7mの単一スパンとすることができ、東西方向は既存樹を中心に据え、6・6・8・6・6mとすることで建築可能範囲を使い切ることができ、この柱割案の場合、中庭が約100㎡の+1割を超えるが、コントロールカウンターを拡張すればこれを解消できる。

建築面積1232㎡（32×42-中庭8×14）は敷地の80%を下回っている。1階面積1008㎡（26×42+4×7-8×14）、2階面積1112㎡（32×42-中庭112-吹抜40-屋上庭園80）、計**2120㎡**となって目標値は下回るが、中間値は上回っている。



##### 柱割B案

視聴覚小ホールを南東配置することを念頭に中庭のプロポーシオンを横長とし、8m×8mと8m×10m（RC造最大スパン）の複合グリッドとした案である。この場合の建築面積は1248㎡、1階面積は1014㎡（26×42+風除3×6-中庭96）、2階面積は1128㎡（32×42-96-吹抜40-屋上庭園80）となり、合計面積は**2142㎡**となって目処は立つ。

B案は、実務ではよく行われている大型グリッドであるが、建物短辺方向に中庭の長手を配置しているため、2階プランニングが難しくなることが予想されるため、以下はA案をもとに進める。

## 5. 室構成検証

柱割A案の1階面積1008㎡の内、開架閲覧室600、エントランスホール（100）、守衛室（10）、荷解き室（20）、ポンプ室（15）については既に配置がほぼ確定している。利用者用便所、EV、主階段等を考慮すると、残るスペースは150㎡程度となり、これで、管理用階段、サービスEV、従業員便所、廊下等をまかなわなければならない。従って、要求室考察で1階または2階と思われる室の内、配置できるとすれば、3室程度と考え、事務室(40)、ボランティア室（20）、開架閲覧室用AHU（30）を1階配置と仮定する。 注：（ ）内の数字は想定値

今回は、ピロティの関係から、室数の少ない1階から定数を算出してみる。

- 1) 問題文または階の構成上、1階配置がほぼ確定の室：開架閲覧室600、エントランスホール（100）、守衛室（10）、荷解き室（20）、ポンプ室（15）……………小計 745㎡
- 2) 1階に仮定配置する室：事務室(40)、ボランティア室（20）、開架閲覧室用AHU（30）……………小計 90㎡
- 3) 上記2項目の室面積……………合計 835㎡
- 4) 仮定1階定数：柱割A案1階面積1008／室面積合計835…………… $\div 1.20$
- 5) エントランスホールを除外した場合の1階定数：1008／735…………… $\div 1.37$

これは、エントランスを算入した定数1.30を下回っているが、その他と考えた全体定数1.39とはほぼ等しいので、計画可能と判断できる。ただし、4)の数値は厳しいものがあるため、柱割A案の考察にあるように、上部閉架書庫との書籍運搬用に小荷物専用昇降機を設置する意味からも中庭側に2mせり出すものとし、調整した定数をそれぞれ  $(1008+16) / 835 \div 1.22$ 、 $(1008+16) / 735 \div 1.39$ とした。

同様に仮定をもとにした2階定数を算出する。

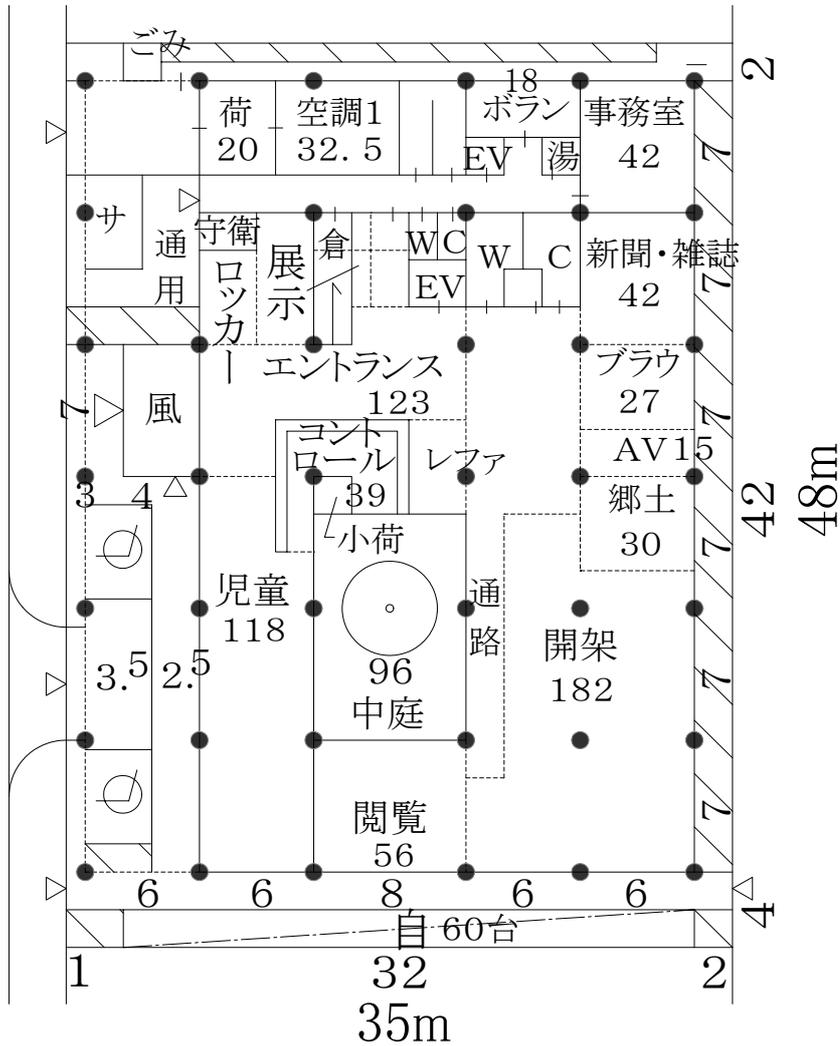
- 1) 2階配置がほぼ確定の室：視聴覚小ホール（130）、ホワイエ（75）、大会議室150、閉架書庫250、視聴覚小ホール用床置きHPP（10）……………小計 615㎡
- 2) 2階に仮定配置する室：図書作業室30、職員会議室（40）、喫茶コーナー（30）、館長・応接室（20）、職員更衣室（20）、閉架書庫用AHU（25）……………小計 165㎡
- 3) 上記2項目の室面積……………合計 780㎡
- 4) 仮定2階定数：柱割A案2階補正面積（1112+補正分16）／室面積合計780 $\div 1.44$

この数値は2種の全体定数を上回っているので計画可能と判断できる。

\*通常はエントランスホールのない2階定数が1階定数より若干下回る（0.1～0.2程度）ことが多い。しかし今年に関しては、2階配置のホワイエが1階におけるエントランスホールを超えた面積を有する場合があります、この課題のように逆転現象が起り得る。

## 6. 1階プランニング

面積の少ない1階のプランニングからやってみよう。

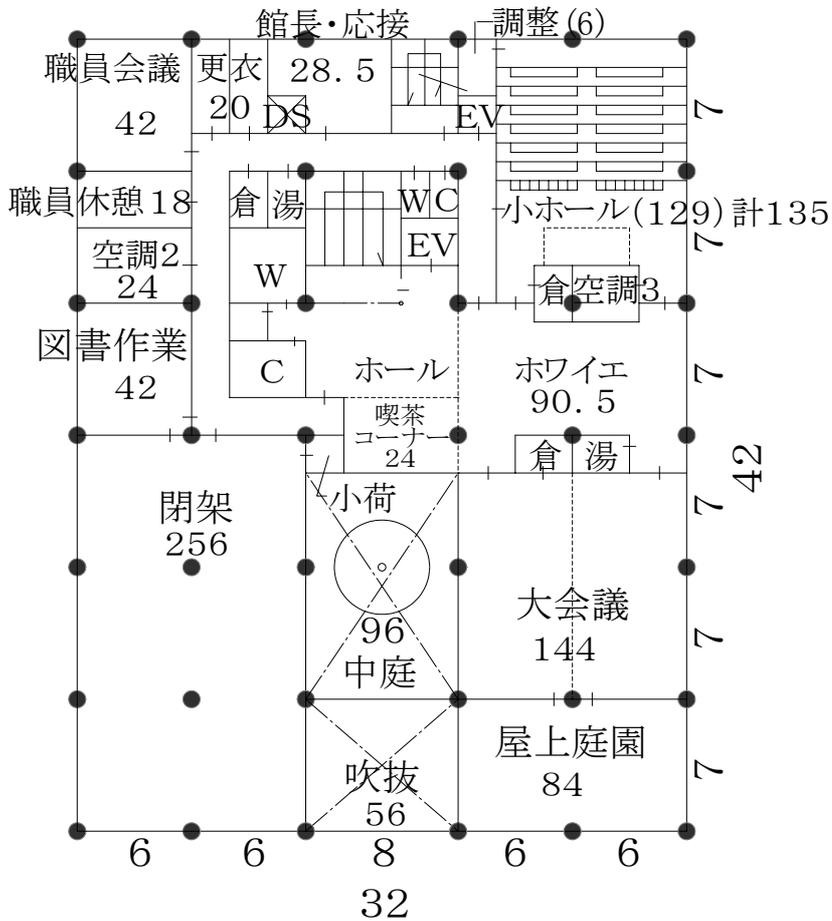


イメージAにもとづき北側に管理ゾーンを配置し、中庭に面したコントロールカウンターは島配置とし、小荷物専用昇降機を設け、エントランスホール、レファレンス、児童開架閲覧の各コーナーに面し、その他全てのコーナーが見渡せる位置とした。

階段、EV、小荷物専用昇降機、DS等は暫定的配置であり、2階プランニングの後、調整を行う。

## 7. 2階プランニング

上記1階エスキスを基に2階プランニングを行う。



建物東側2スパンを使い、北から小ホール、ホワイエ、大会議室、屋上庭園と順次並べることで大会議室は分割した状態でも2面採光とすることができる。

視聴覚小ホールの組み立て式ステージは巾が4.5mとなっているため、ステージ脇を出入口としたことで、段床を置き床としてスラブを下げずに済んでいる。また、無窓居室の重複距離（20m以下）をクリアするため、管理廊下側にドアを設け、非常口兼用とした。

危惧した2階段の距離が近い点については、管理廊下を回廊式にすることで重複距離の心配を解消している。

これにより1階エスキスの階段、EVは踏襲できたが、小荷物専用昇降機は閉架書庫を南西側に配置し、1階コントロールカウンターとつなぐために、背中側扉とすることで成立させた。

その他の諸室については、概ね指定・想定面積を満たしている。その他、EPS、PS等を記入することにより、エスキスが完成する。

以上のエスキスを基に図面解答例が作成されている。

## 8. 作図過程での変更事項

喫茶コーナーの配置はエスキスのままでも問題文指示に反していないが、1階利用者も気軽に利用できるためには、エントランスホールに面してあることが好ましいと考え、ロッカーコーナー、展示コーナーとの調整により1階配置とした。

館長・応接室はDS、EPS、PSの配置によりL型となるため、「面積適宜」の指示ではあるが、家具があっても支障がないことを示すため、レイアウトをおこなった。

定数の調整と小荷物専用昇降機の設置により中庭を2m狭め、1・2階を各16㎡増やし、一般閲覧コーナー上部の吹抜けが想定より大きくなった結果、面積は解答例のようにになっている。

---

## 問題と解答例の作成にあたって

---

練習課題4では、大きな図書空間の中央にコントロールカウンターがあり、多くの機能を兼用することにより管理ゾーンとの接続ができない場合（島配置）の、書籍移動動線を確保する手法習得と、中庭をいかに内部空間にとって有効な存在とすることができるかを意図した。このタイプのプランにおいて、2階段が近くなる傾向となるため、重複距離オーバーの回避手法の理解も重要な要素と考えており、2階のプランをまとめるのは多少難しいが、総合的な課題の難易度としては課題3と同程度と判断している。

構造分野においては、視聴覚小ホールのみならず、大会議室も長スパンの必要があり、引き出し補足説明を必要としている。また、「耐力壁等を設ける。」といった指示が無い場合、あえて揺れの抑制の意味から短辺方向にEWを設置し、長辺方向は純ラーメンを前提とした記述解答としている。

設備分野においては、地下の無い設定であるため、吹抜けのある開架閲覧室、天井の高い視聴覚小ホール、24時間通年の空調管理が必要な閉架書庫について、それぞれに空調機室を設け対応している。

排煙について、視聴覚小ホールは機械排煙で対応しているが、2階の管理廊下は無窓となっているため、屋上に排煙トップライトを付けるものとし、二点鎖線の表記としている。